

月報 シオン山

2026年8月2日発行 (No 510)

日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下到津2-15-21

Tel (093) 561-0772 Fax (093) 561-0760 E-mail: bapshion@eagle.ocn.ne.jp

.....

【月間聖句】

実に、キリストはわたしたちの平和であります。

(エフェソの信徒への手紙2章14節a)

「セミの一生と人間の一生」

磯部みゆき

先日、暗くなって帰宅し玄関を開けようとしたら、家の壁に地上に出てきて羽化し、成虫になろうと頑張っているセミを見つけました。今年は梅雨が長く、梅雨が明けると気温が上がり一気にセミが鳴き始めました。

セミの一生と人間の一生を比べると、時間の長さは大きく違います。セミは地中で6年ほど過ごし、地上に出てからはわずか数週間ほどで命を終

えるといわれています。一方、人間は平均して約80年ほどは生きることができます。しかし、大切なのは命の長さではなく、その時間をどのように生きるかということです。

セミは長い間、暗い土の中で成長し、十分に力を蓄えた後、地上へ出て美しい羽を広げます。そして短い期間ではありますが、一生懸命に鳴き、子孫を残すという大切な役目を果たします。その姿からは、どんな準備の時間にも意味があり、努力は決して無駄にならないということを学ぶことができます。

人間も同じように、子どもの頃から遊びや勉強、様々な経験を積み重ね、大人になって社会で活躍します。うまくいかないことや苦しい時期があるかと思いますが、それらは将来の自分を成長させるための大切な時間です。また、人間には長い人生があるからこそ、家族や友だちとの時間を大切にし、自分だけでなく周りの人の幸せを考えながら生きることが求められます。

セミの一生は短いからこそ、一日一日を精一杯生きているように感じられます。私たちは長い人生があるため、「まだ時間がある」と思ってしまいがちですが、その時間は決して無限ではありません。だからこそ、今日という一日を大切にし、目標に向かって努力し、感謝の気持ちを忘れずに生きることが大切です。

セミの一生は、人間に「命の価値は長さではなく、生き方で決まる」ということを教えてくれているように感じます。限られた時間を大切に使い、自分らしく精一杯生きることこそが、人間が心に留めておくべき大切な教訓なのではないでしょうか。

今も鳴き続けているセミの声をきくと、「前を向いて歩こう！」と力をもらいます。